

第1回砺波市立学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 開催日時 令和2年9月24日（木） 午後3時～午後4時30分
- 2 開催場所 砺波市役所 3階 大ホール
- 3 出席委員の氏名（50音順 敬称略）
安念 匠太郎、飯田 哲弘、井上 五三男、金平 正、久保田 晃克、笹田 茂樹、
竹山 美紀、西島 健史、林 誠、樋掛 恵美、藤井 法子、藪 道子
- 4 欠席委員の氏名（50音順 敬称略）
吉田 直人
- 5 事務局の氏名
山本 仁史（教育長）、 構 富士雄（事務局長）、 河合 実（教育総務課長）、
岩滝 修二（教育総務課主幹）、 三部 修嗣（教育総務課庶務係長）

6 委員会次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 委員会設置の趣旨について
- 6 委員長、副委員長の選出
 - (1) 委員長の選出
 - (2) 副委員長の指名
- 7 議事
 - (1) 人口について
 - (2) 市内の小中学校の設置状況について
 - (3) 児童生徒数について
 - (4) 1クラス当たりの児童生徒数について
 - (5) 学級数について
 - (6) 小中学校の規模について
- 8 閉会

7 委員会の要旨

教育長

<教育長あいさつ>

委員の皆さまには砺波市立学校のあり方検討委員会の委員をお引き受けいただき、また、本日の委員会にご出席いただいたことにお礼を申し上げます。

この委員会はその名のとおり、これからの砺波市の小中学校のあり方を考えていただく会であります。それは学校をめぐる情勢が様々に変化していることも起因しており、一つは子どもの数が減る少子化の問題、タブレットを始めとするICT機器の導入、制度自体を見直して義務教育学校を模索する市もあります。

当委員会では、資料としていろいろとご提示したり、資料だけでなく実際の学校現

場を視察いただき、考えをまとめていただくための一助としたいと考えています。是非、今後のあり方についてご協議いただきたいと思います。

テニスの大阪なおみ選手が、黒のマスクについて問われたとき、こう答えました。「あなたの受け取ったメッセージは何でしたか？ メッセージをあなたの方がどのように受け取ったかに興味があります。話し合いが起きればと。より多くの人がこのことを語るといいと思います。」

まさに、この言葉のとおりでございます。

当委員会での協議が市民の皆さんに伝わり、語っていただくことを願ひまして、発足の挨拶といたします。

教育総務課長 <委嘱状交付>

教育総務課長 <委員紹介>

教育総務課長 <市職員紹介>

教育総務課長 <委員会設置の趣旨について説明、質疑応答>

教育総務課長 <委員長選出>

※事務局から富山大学人間発達科学部教授 笹田茂樹氏を提案し、承認を得た。

委員長 <委員長あいさつ>

笹田と申します。富山大学で教員をしており、専門は教育行政学で、こういった学校の適正規模についても研究テーマとしております。

砺波で印象に残っているのは、富山県の中で一時期人口が増えたことがあって、すごいパワーがある自治体だなと思っていましたが、職員の方から「子どもの数がかなり減ってきている」との話聞き、そうなんだと気付かされました。

この検討委員会は、砺波市の将来を見越して、学校をどのような形にしていくのかということで、学校の適正規模や適正配置について考えていく会議であります。砺波市は「これから皆さんの意見を聞いて検討していこう」との方針であります。

皆さんの忌憚のないご意見を聞かせていただければと思います。

若輩者ではございますが、これからよろしく願いいたします。

議長 <副委員長指名>

今回の委員会の所掌事項である「学校の規模や適正配置」について協議していくにあたり、議論を深めていくためには地域のご意見が重要になる。

今回の委員の方に、地域の代表者の方として、砺波市地区自治振興会協議会の会長がおられるので、井上委員にお願いしたいと思うが、どうか。

<拍手多数により、井上五三男委員が副委員長に就任した>

事務局 <議事（１）人口について、（２）市内の小中学校の設置状況について、（３）児童生徒数について 説明>

委員 子供たちの現在の数字についてご説明いただいた。特に小学校低学年の減り方が顕著である。この傾向について事務局で分析したものがあれば教えて欲しい。特に０歳から小学校１年生のグラフの傾きが大きい、今後６年後にどうなるのか。

事務局 今回の会議は第１回ということもあり、現状をお示ししている。砺波市の年齢人口でみると１２歳は５００人程度の人口がいるが、今の０歳は３００人を切った人口になり減少幅は４１％程度になる。この傾向が続けば将来的な小学校の人数も減っていくことになる。

次回の会議にて、各地区や学校区での状況についてお示ししたい。

教育長 このグラフは転入数を含めていないので、将来的な人口はもう少し増えると考えている。実際、今年の成人式を見ると、出生数は５１０人程だったが、招待したのは

600人であり、この間に転入される人数がいるということをご承知願いたい。
しかしながら、300人がいきなり100人増えて400人になるということは考
えられないので、傾向としてとらえていただければと思う。

委員 3月31日現在の0歳児が291人と衝撃的な数である。今年度4月以降の出生を
見て、この291人を上回りそうか、下回りそうか。

事務局 前年と比較しながら報告させていただきたい。

委員 砺波市内の小中学校の配置図があるが、庄川小学校の近くまで庄南小学校区が来て
おり、どう考えても庄川小学校に通学した方が近いのではないかと思える。
今後、校区の変更について考えているのか。

事務局 小学校は学区制が引かれており通学する学校は決められている。ただし、この学区
は見直せないものではないので、委員の皆さんから見直しについて意見があればこ
の委員会からの提言としてどうかなど、議論していただければと思う。

議長 砺波市では通学区域の弾力的な運用はしているのか。

事務局 個別の事情にもよるが、保護者が送迎できるなど条件をつけ弾力的な運用も認めて
いる。

議長 近年、通学区域の弾力的運用は実施されている。保護者の事情により特例的に認め
ることはあり得る。

委員 般若中学校区はとても広い。中学校の場合、校区と校区の境界近くの子供たちは自
転車で通っているのか、保護者が送迎しているのか。

事務局 庄東小学校についてはスクールバスを運行している。般若中学校の場合は自転車
で通学しているが、実際には保護者が送迎している例もあるかと思う。

議長 庄川小学校はどうか。

事務局 庄川小学校もスクールバスを運行している。中学校は自転車で通学している。

委員 砺波市の年齢別人口のグラフを見ると年々減少していることはわかるが、細かく見
ると、年により増えているときもあれば、減っているときもある。個別の要因があ
るのか。その要因が今後の人口増のきっかけになるのではないか。

事務局 次回までに確認してみたい。

委員 市内中学校の生徒数の推移を見ると、庄西中学校は平成22年からほとんど推移の
変化がないように見える。庄西中学校はどの小学校から進学してくるのかと確認す
るうえでも、中学校の校区を示した地図を準備いただければ解りやすい。

事務局 庄西中学校には、砺波東部小学校と庄南小学校が進学するが、市内小学校の児童数
の推移を見ると、いずれの学校も児童数が減少している。どうして中学校の推移に
変化がみられないのだろうかと思議に思った。

事務局 次回までに、中学校区を示した資料を準備したい。

委員 また、中学校と小学校の推移の変化については、小学校の児童数の減少の影響が、
今後中学校に現れてくるものと考えている。

委員 砺波市の人口のグラフについて、15歳から64歳の生産年齢人口で区分されてい
るが、もう少し細かく区分した方が検討しやすい。

事務局 統計的な分け方として、年少人口、生産年齢人口、老年人口に区分した。もう少し
細かく年齢を区分したものを準備したい。

委員 砺波市としては人口を増やしていきたいのか。

事務局 砺波市は安心して子供を産み育てやすい環境の整備や、IターンやUターンのよう
に、転入して選んでいただける市を目指した対策を進めている。

委員 子供の数が減ってきているが、そもそも兄弟の数も減っている。昔は3人兄弟とか

事務局 委員	<p>も多いように思ったが、今は一人っ子という家庭も多くあるように思う。そのような事は分析されているのか。</p> <p>そのような分析は今のところしていない。</p> <p>今年の県勢要覧では、砺波市は県内で若い世代の比率が富山市や舟橋村に続いて高い状況。他市はもっと低い比率になっている。その砺波市が資料をみるとこのような状況になっている。これは心して取り組み、考えていかないと大変なことになると問題の大きさを思い知らされた。</p>
事務局	<p>昨年度、各地区に対し、出生数の少なさについて説明されたと聞いているが、どのように説明されたのか、また、各地区の反応はどうだったか教えて欲しい。</p> <p>昨年度、公共施設の再編について地域に話をさせていただいた際に、地域の現状についても説明させていただいた。</p> <p>今日は、社会増ではあるが、自然減、亡くなられる方が多く、出生数は少ないという状況から、人口減少が進んでいると認識している。</p> <p>そうした中で、各地区では市に対してIターンやUターン施策の推進を臨んでおられるのではないかと認識を持った。本市としても三世代同居等の取り組みを進めているところ。</p>
事務局 委員	<p><議事(4) 1クラス当たりの児童生徒数について、(5) 学級数について 説明></p> <p>1クラス当たりの児童数について、砺波南部小学校は6年生40人でも1クラス、庄東小学校では4年生39人でも2クラスに分けている。これは学校裁量なのか、施設の事情によるものなのか。</p>
事務局 委員	<p>学級編成の基本は40人以下は1クラスであるが、3・4年生は学校において35人から40人のクラスの場合、2クラスの編成を選択できるという基準があり、学校において2クラスを選択しているもの。</p> <p>小学校の教室の大きさは40人を基準に作られていると思う。今年は新型コロナウイルス感染症対策として、一定の距離を開けて子供たちは生活していると思うが、疾病対策の一環として、市独自の基準で学級編成を行うことは可能なのか。</p>
教育長	<p>学級編成の基準は国。この基準により配置される教員の人数が決まることになり、国が教員の給料の一部を支払う。自治体によっては独自の基準により学級編成を行っている場合もある。市町村でというのはあまり聞かないが、県や特別区などの規模の大きな自治体で、そのような取り組みを行っているところもある。</p> <p>現在、国でも見直しの意見が出ており、全学年30人学級という話も聞こえてくるが、30人学級にした場合、教員が増えることによる財政負担の問題や、そもそも教員が集まるのかという問題もあり、なかなか先が見通せない問題であると思っている。</p>
委員	<p>児童生徒数の推移は、日頃から肌で感じている実感がそのままグラフになっているなどと思った。</p>
委員	<p>砺波市の複式学級の定義について教えて欲しい。</p> <p>例えば鷹栖小学校の2年生は22人だが、もしも2学年併せて35人以下となった場合にどのようになるのか、国の基準なのか、市の基準なのか。</p>
事務局	<p>複式学級にする基準は国で決められている。2つ以上の学年において16人以下になった場合に複式学級になる。</p> <p>鷹栖小学校の場合、複式学級に直ちになるという状態ではない。しかしながら、出生数が二桁を割るような事態が今後おきてくるのではないかとこのことを危惧している。</p>

委員 子供たちのソーシャルディスタンスを確保するためには、どのくらいのクラスの広さが必要になるのか。施設の広さにより学級の人数に制限を受けるのではないか。

事務局 現在、学校では1メートル以上の距離をとるように指導があるため、そのような対応を意識している。そのため、廊下まで机を出して授業を行ったり、多目的スペースなど教室よりも広いスペースを教室がわりに授業を行うなどして進めている。

委員 学級数の推移の中に支援学級を含めていないのはどうしてか。

教育長 市内小中学校の普通学級の推移のグラフに支援学級を含めていないのは推移を見ていただいたかったから。支援学級は該当する児童がいれば開級するが、いなくなれば減級することになるため、推移がわかりにくくなってしまったため。

議長 国による基準を超えて市独自の基準で教員を配置した場合に、かなりの市の財政負担になってしまうため少人数学級には進みにくいと思う。現在、国において基準の見直しも検討されており、今後、減っていく傾向にあると思っている。

委員 この委員会に参加し、大変な問題について考える機会を得たと思っている。現在の社会は、晩婚化や結婚をされない方も多くおられることもあってか、少子化傾向は続くと思っている。そんな中で今後を見据えていくと、砺波市の小中学校は耐震化も完了し、普通教室にエアコンも整備されており、授業もしやすい環境になっている。

委員 学校は授業をすすめるだけでなく、地域の防災拠点の役割も担っていることから、砺波市全体で考える問題であると思う。

委員 しっかりと議論し、忌憚のない意見を出し合いながら、委員一丸となってこの大変な問題に取り組んでいきたいと思う。その際には砺波型の提言というのがあるのもいいようにも思っているので、議論を尽くしたい。

委員 学級数が減ることによって出てくる空教室は、現在、使われていない状況なのか。また、コストを度外視しての考えだが、先進国では多様化に対応するために少ない人数での教育に進んでいると思うが、その点をどう考えているのか。

事務局 空教室は建設当時に比べて増えているが、算数や理科などの授業において、少人数学級に編成し直した授業や、グループ学習で使用するなど有効的に活用している。また、少人数学級については、現在、国において「教育再生実行会議」で議論されており、来年度には提言が出される予定となっていることから、議論の行方を確認しながら委員の皆さんに情報提供させていただきたい。

事務局 <議事（6）小中学校の規模について 説明>

※事務局より、次回の第2回委員会において、適正規模校と小規模校の様子を確認いただくため視察を行うことを提案した。

事務局長 <閉会あいさつ>

本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。この委員会は皆さまからの意見、多くの市民の皆さまからの意見をもとにとりまとめたと考えております。

多くの資料提供を求められましたが、誠意を持って皆様方に提供させていただき、多くのご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、砺波型の提言があってもいいのではないかというご発言もございましたが、砺波ならではの提言にまとめることができればなとも考えておりますので、今後とも引き続き、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。